

**2022 年度版**

「自助・共助・公助について考えよう」  
授業展開案（50 分）

## 1. 学習のねらい

- ・自助、共助、公助の考え方について理解する。
- ・社会保障制度と自助（預貯金・民間保険）について、特徴や保障などを理解する。
- ・社会保障制度を持続可能なものにするために、自助・共助・公助の適切な組み合わせについて考える。

## 2. 授業の概要（50分）

概要	学習内容とねらい
導入 (10分)	1.少子高齢化について考え方 ★少子高齢化の現状を把握する
展開① (10分)	2.社会保障制度について ★自助・共助・公助の考え方について理解する ★保険のしくみについて理解する ★社会保障制度（社会保険）について学ぶ
展開② (10分)	3.自助って何? ★自助の代表的な手段である預貯金と民間保険について、そのしくみと特徴を理解する
グループワーク (15分)	4. 自助・共助・公助について考え方 ★学んだ内容を振り返り、持続可能な社会保障制度を維持するためには、「自助・共助・公助」のどれが一番大切だと思うか、自分の考えをまとめる
まとめ (5分)	5.まとめ ★授業のふりかえりをする

## 3. 授業形式

- ・パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

## 4. 準備物

- ・生徒用ワークシート(WS)、パソコン(パワーポイントが使える環境のもの)、プロジェクター、スクリーン、筆記用具(生徒)

授業時間が50分以上の場合や、授業展開案(50分)の内容を補足したい場合は・・・

### 50分授業セット「自助・共助・公助について考え方」 ※本教材



#### ひと目でわかる生活設計情報

生活設計をたてるために必要な基本的な考え方やヒント・参考情報を分かりやすくまとめています。

<https://www.jili.or.jp/lifeplan/>



#### 生命保険を知る・学ぶ

生命保険に関する知っておきたい基礎知識や、生命保険・年金・医療・介護・税金に関するQ&A、出版物などを通して、最新かつ適切な情報をお届けします。

[https://www.jili.or.jp/knows\\_learns/](https://www.jili.or.jp/knows_learns/)



#### 生命保険の契約にあたっての手引

生命保険の「契約にあたってのポイント」、「商品の選び方」、「契約時の留意点」、「保障内容の見直し方法と留意点」などを解説したものです。生命保険の契約の際に参考してください

<https://www.jili.or.jp/tebiki/index.htm>



## 【図記号の説明】

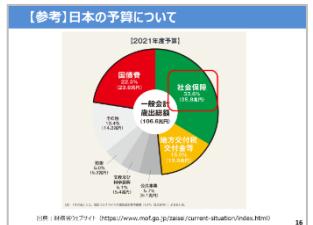
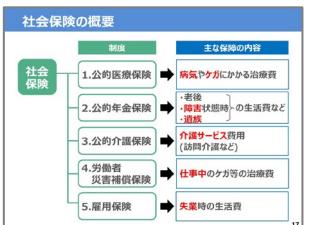
○:スライドタイトル 【WS】ワークシート掲載

★:ポイント ★★★:重要ポイント (Q):発問

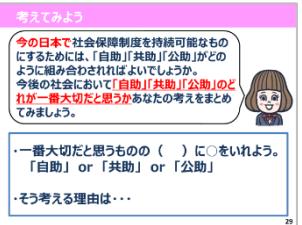
## 5. 授業展開（詳細）

時間	内容	備考	スライド																											
導入 10分	<p><b>1.少子高齢化について考えよう</b></p> <p>○日本の中高齢化率は何%?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★クイズ形式で今の日本の高齢化率を確認する</li> <li>★高齢化社会、高齢社会、超高齢社会の定義を紹介する</li> </ul> <p>○日本の少子高齢化の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★グラフで少子高齢化の状況、今後の推計を認識させる</li> </ul> <p>○平均寿命</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★日本の平均寿命を紹介する</li> </ul> <p>○高齢化について考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★生徒が高齢者になったときをイメージさせる</li> </ul> <p>○人生におけるリスク</p> <p>★★★老後の生活費や介護の問題等の高齢化に伴うリスクだけではなく、亡くなったり、病気やケガをしたり、交通事故にあったり、勤め先が倒産する等、人生には様々なリスクがあることを伝える</p>	<p>(Q) 2020年の日本の65歳以上の高齢者は全体の人口の何%?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年までが実績値</li> <li>• 2025年以降は推計値</li> </ul> <p>• 昔に比べて平均寿命が伸びており、老後の生活費の準備や介護といった問題等が生じる可能性が高くなってきていること、ならびに健康寿命を延ばすことが課題となっていることを伝える。</p> <p>(Q) みんなは何歳まで元気でいたい、何歳まで働きたい?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年の平均寿命と健康寿命の差は男性約9年(平均寿命81.64歳)、女性約12年(平均寿命87.74歳)</li> </ul> <p>• 次章の自助・共助・公助の説明への展開として、人生におけるリスクに備える考え方として、「自助・共助・公助」があることを伝える</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>日本の高齢化率は何%?</b></p> <p>【問題】 2020年の日本の高齢者(65歳以上)は全体の人口の何%でしょうか?</p> <p>A. 約7% B. 約14% C. 約21% D. 約29%</p> <p>【答え】 D. 約29% ⇒ 28.8% (2020年)</p> <p>高齢者(65歳以上)の割合が 7%超 … 高齢化社会 14%超 … 高齢社会 21%超 … 超高齢社会</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>日本の少子高齢化の現状と推計</b></p> <table border="1"> <caption>人口に対する各年齢層の割合 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>65歳以上</th> <th>75歳以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1950年</td><td>7.2</td><td>2.2</td></tr> <tr><td>1975年</td><td>14.7</td><td>4.7</td></tr> <tr><td>2020年</td><td>28.8</td><td>7.7</td></tr> <tr><td>2025年</td><td>31.2</td><td>8.1</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>平均寿命</b></p> <p>「平均寿命」とは… 0歳の子どもが平均して何歳まで生きられるかを示す指標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>男性</th> <th>女性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1950年(昭和25年)</td><td>58.0歳</td><td>61.5歳</td></tr> <tr><td>1975年(昭和50年)</td><td>71.7歳</td><td>76.9歳</td></tr> <tr><td>2020年(令和2年)</td><td>81.6歳</td><td>87.7歳</td></tr> </tbody> </table> <p>*厚生労働省「国民健康・栄養調査」(2020年)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>高齢化について考えよう</b></p> <p>【参考データ】 健康寿命…健康上の問題がない、日常生活に制限のない期間 2019年 男性 72.68歳 女性 75.38歳</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><b>人生におけるリスク</b></p> <p>人生には色々なリスクがあるよね。 リスクが起ったときに、どうやって 自分の生活を守るか考えてみよう。</p> </div>	年	65歳以上	75歳以上	1950年	7.2	2.2	1975年	14.7	4.7	2020年	28.8	7.7	2025年	31.2	8.1	年	男性	女性	1950年(昭和25年)	58.0歳	61.5歳	1975年(昭和50年)	71.7歳	76.9歳	2020年(令和2年)	81.6歳	87.7歳
年	65歳以上	75歳以上																												
1950年	7.2	2.2																												
1975年	14.7	4.7																												
2020年	28.8	7.7																												
2025年	31.2	8.1																												
年	男性	女性																												
1950年(昭和25年)	58.0歳	61.5歳																												
1975年(昭和50年)	71.7歳	76.9歳																												
2020年(令和2年)	81.6歳	87.7歳																												

時間	内容	備考	スライド
展開① 10分	<p><b>2.社会保障制度について</b></p> <p>○リスクに備える【WS】穴埋め</p> <p>★★★リスクに備えるための考え方として、 「自助、共助、公助」があることを伝える</p> <p>○「社会保障制度」とは</p> <p>★社会保障制度には 4 つの柱があることを理解させる</p> <p>○「共助」と「公助」の財源の違い 【WS】穴埋め</p> <p>★「共助」は労働者等から集める「社会保険料」 「公助」は国民から集める「租税」で運営されている違いについて認識させる</p> <p>○保険のしくみ①②③</p> <p>★「社会保険」「民間保険」に共通する「保険のしくみ」について単純化した例で説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・共助・公助を身近なリスクで説明するとわかりやすい。 例) 学校での単位取得にあたり、単位が取れないリスクに備えるためには? 自助: ひたすら自分1人で勉強する 共助: 友達に教えてもらう 公助: 分からない部分を先生に聞く</li> <li>・社会保険は「共助」、その他3つは「公助」に該当することも伝える</li> <li>・「共助」は一部租税でも賄われている。※例: 国民年金は 1/2 が国庫(租税)負担</li> </ul>	
	<p>&lt;ストーリー・スクリプト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100人の部員がいるサッカーチームがある</li> <li>・毎年5人の部員が骨折すると仮定する</li> <li>・対策をしてもケガは減らない</li> <li>・治療には費用がひとり1万円かかる</li> </ul> <p>(次スライド)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そこである部員が思いついた</li> </ul> <p>「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・治療に係る費用はチーム全体で1万円×5人=5万円</li> <li>・5万円を100人で準備すればよいので、5万円÷100人=ひとり年間500円</li> <li>・骨折した生徒は1万円を受け取り、治療費にあてることができる</li> </ul> <p>(次スライド)</p> <p>★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める</p>	<p>保険のしくみ①</p> <p>100人の部員がいるサッカーチーム → 每年5人の部員が骨折をしている → 対策をしてもケガは減らない… → 治療にかかる費用はひとり10,000円</p> <p>保険のしくみ②</p> <p>全員で治療にかかる費用を準備すればよいのでは? → 治療にかかる費用は全員分で10,000円×5人 → 50,000円 → 50,000円÷100人 → ひとり年間500円 → 骨折した生徒は10,000円を受け取り、治療費にあてる</p> <p>保険のしくみ③</p> <p>ケガに備えるために…… それが出し合う費用 500 × 100人 → 10,000円 × 100人 = 1,000,000円 → 骨折した5人は10,000円ずつ受け取り、治療費を支払える</p>	

時間	内容	備考	スライド																						
	<p>○社会保障給付額の推移 ★社会保障制度の給付額が年々高額になっていることを確認する。 ★★★少子高齢化が進む中で社会保障の給付額が増えていく実態を確認し、持続可能な社会保障制度のあり方について考えしていくことが大切であることを伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>給付額の多くは社会保険による費用であることに触れ、次スライドで社会保険について説明を行うことを伝える</li> <li>ここで再びスライド4「日本の少子高齢化の現状と推計」を用いて、少子高齢化と社会保障の給付額が増えていく実態を結び付けて説明しても良い。</li> </ul>	 <table border="1"> <caption>社会保障給付額の推移 (単位:兆円)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>1975年</th> <th>1980年</th> <th>1985年</th> <th>1990年</th> <th>1995年</th> <th>2000年</th> <th>2005年</th> <th>2010年</th> <th>2015年</th> <th>2019年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年</td> <td>3.5兆円</td> <td>2.6兆円</td> <td>4.7兆円</td> <td>7.4兆円</td> <td>78.4兆円</td> <td>105.4兆円</td> <td>121.3兆円</td> <td>121.3兆円</td> <td>121.3兆円</td> <td>188.5兆円</td> </tr> </tbody> </table>	年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2019年	年	3.5兆円	2.6兆円	4.7兆円	7.4兆円	78.4兆円	105.4兆円	121.3兆円	121.3兆円	121.3兆円	188.5兆円
年	1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2019年															
年	3.5兆円	2.6兆円	4.7兆円	7.4兆円	78.4兆円	105.4兆円	121.3兆円	121.3兆円	121.3兆円	188.5兆円															
	<p>○【参考】日本の予算について ★★日本の社会保障給付額にあてている予算が全体の30%を超えていることを説明。</p>		 <table border="1"> <caption>【参考】日本の予算について (2021年度予算)</caption> <thead> <tr> <th>予算区分</th> <th>額 (兆円)</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会保障費</td> <td>10,430.0</td> <td>30.3</td> </tr> <tr> <td>公的年金</td> <td>4,420.0</td> <td>13.1</td> </tr> <tr> <td>公的介護保険</td> <td>1,040.0</td> <td>3.1</td> </tr> <tr> <td>労働者災害補償保険</td> <td>1,020.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>雇用保険</td> <td>1,010.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>11,120.0</td> <td>33.5</td> </tr> </tbody> </table>	予算区分	額 (兆円)	割合 (%)	社会保障費	10,430.0	30.3	公的年金	4,420.0	13.1	公的介護保険	1,040.0	3.1	労働者災害補償保険	1,020.0	3.0	雇用保険	1,010.0	3.0	その他	11,120.0	33.5	
予算区分	額 (兆円)	割合 (%)																							
社会保障費	10,430.0	30.3																							
公的年金	4,420.0	13.1																							
公的介護保険	1,040.0	3.1																							
労働者災害補償保険	1,020.0	3.0																							
雇用保険	1,010.0	3.0																							
その他	11,120.0	33.5																							
	<p>○社会保険の概要 ★社会保険の内容について簡単に説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受けられることを伝えられればよい</li> </ul>	 <table border="1"> <caption>社会保険の概要</caption> <thead> <tr> <th>社会保険</th> <th>制度</th> <th>主な保険の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">社会保険</td> <td>1.公約医療保険</td> <td>病気やケガにかかる治療費</td> </tr> <tr> <td>2.公約年金保険</td> <td>老後・障害状態時の生活費など</td> </tr> <tr> <td>3.公約介護保険</td> <td>介護サービス費用 (訪問介護など)</td> </tr> <tr> <td>4.労働者災害補償保険</td> <td>仕事中のケガ等の治療費</td> </tr> <tr> <td>5.雇用保険</td> <td>失業時の生活費</td> </tr> </tbody> </table>	社会保険	制度	主な保険の内容	社会保険	1.公約医療保険	病気やケガにかかる治療費	2.公約年金保険	老後・障害状態時の生活費など	3.公約介護保険	介護サービス費用 (訪問介護など)	4.労働者災害補償保険	仕事中のケガ等の治療費	5.雇用保険	失業時の生活費								
社会保険	制度	主な保険の内容																							
社会保険	1.公約医療保険	病気やケガにかかる治療費																							
	2.公約年金保険	老後・障害状態時の生活費など																							
	3.公約介護保険	介護サービス費用 (訪問介護など)																							
	4.労働者災害補償保険	仕事中のケガ等の治療費																							
	5.雇用保険	失業時の生活費																							
展開② 10分	<p>○困ったときに受けられる公的保障を考えてみよう ※グループで考えてもよい ★それぞれの状況で、どの社会保険から保障が受けられるか考えてみよう</p>	 <table border="1"> <caption>困ったときに受けられる「社会保険」を考えてみよう</caption> <thead> <tr> <th>状況</th> <th>制度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高年齢で、介護が必要な人</td> <td>公約医療保険</td> </tr> <tr> <td>会社で怪我をしてしまった</td> <td>労働者災害補償保険</td> </tr> <tr> <td>高齢で入院した</td> <td>公約医療保険</td> </tr> <tr> <td>高齢で介護が必要な人</td> <td>公約介護保険</td> </tr> <tr> <td>交通事故で怪我をしてしまった</td> <td>労働者災害補償保険</td> </tr> <tr> <td>高齢で亡くなった</td> <td>公約年金</td> </tr> <tr> <td>会社で怪我をしてしまった</td> <td>労働者災害補償保険</td> </tr> <tr> <td>会社で怪我をしてしまった</td> <td>雇用保険</td> </tr> </tbody> </table>	状況	制度	高年齢で、介護が必要な人	公約医療保険	会社で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険	高齢で入院した	公約医療保険	高齢で介護が必要な人	公約介護保険	交通事故で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険	高齢で亡くなった	公約年金	会社で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険	会社で怪我をしてしまった	雇用保険					
状況	制度																								
高年齢で、介護が必要な人	公約医療保険																								
会社で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険																								
高齢で入院した	公約医療保険																								
高齢で介護が必要な人	公約介護保険																								
交通事故で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険																								
高齢で亡くなった	公約年金																								
会社で怪我をしてしまった	労働者災害補償保険																								
会社で怪我をしてしまった	雇用保険																								

時間	内容	備考	スライド																						
	<p>○リスクに備える(再掲)</p> <p>★自助の代表的なものに預貯金と民間保険があることを確認する</p> <p>○自助が必要な事例（入院・手術を伴う骨折の場合）</p> <p>○自助が必要な場合（亡くなった場合）</p> <p>★けがをした場合や亡くなってしまった場合にどのように「自助」が必要になるのか、事例と金額を提示し紹介する</p> <p>○預貯金と民間保険①</p> <p>○預貯金と民間保険②</p> <p>○預貯金と民間保険③</p> <p>★預貯金と民間保険の性質の違い、それぞれのメリット、デメリットについて説明する</p> <p>★★★預貯金と民間保険どちらがよいか、ではなくそれとの特徴を押さえた使い分けが大事であることを認識させる</p>	<p>・自助が必要な事例を紹介した後、自分自身に起こりうるリスクや対策についてあらためて考えさせる。</p> <p>・民間保険とは、保険会社に保険料を支払うことによって、リスクが起ったときに保険金を受け取ることができる「契約」であることを伝える</p>	<p>リスクに備える</p> <p>自助 自分で備える 預貯金 民間保険</p> <p>共助 共に備える 健診検査や年金などの社会保険</p> <p>社会保険制度</p> <p>公助 国などができる生活困っている人などを支援</p> <p>20</p> <p>自助が必要な事例（入院・手術を伴う骨折の場合）</p> <p>必要なお金</p> <table border="1"> <tr><td>かからず療養費</td><td>約178万円</td></tr> <tr><td>その他の</td><td>約30万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約186万円</td></tr> </table> <p>入ってくるお金</p> <table border="1"> <tr><td>公的年俸</td><td>約166万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約166万円</td></tr> </table> <p>= 自助で準備する必要があるお金 約20万円</p> <p>21</p> <p>自助が必要な事例（亡くなった場合）</p> <p>必要なお金</p> <table border="1"> <tr><td>生前贈与</td><td>約9,190万円</td></tr> <tr><td>その他の費用</td><td>約1,550万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約10,740万円</td></tr> </table> <p>入ってくるお金</p> <table border="1"> <tr><td>公的年俸</td><td>約6,190万円</td></tr> <tr><td>法定相続分</td><td>約2,340万円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>約8,930万円</td></tr> </table> <p>= 自助で準備する必要があるお金 約4,130万円</p> <p>22</p> <p>預貯金と民間保険①</p> <p>預貯金</p> <p>民間保険</p> <p>23</p> <p>預貯金と民間保険②</p> <p>預貯金 民間保険</p> <p>さまざまな目的のために貯める</p> <p>特定の損失に備える</p> <p>24</p> <p>預貯金と民間保険③</p> <p>預貯金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>貯めたお金は自由に使うことができる</li> <li>途中での引き出しや貯めるペースが自由</li> <li>預けた金額に応じて利子がつく</li> </ul> <p>メリット</p> <p>デメリット</p> <p>民間保険</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、必要な金額が貯まっているとは限らない</li> <li>途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、決められた金額を保険料として支払う必要がある（保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある）</li> </ul> <p>途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、あらかじめ決められた金額を受け取ることができる</p> <p>25</p>	かからず療養費	約178万円	その他の	約30万円	合計	約186万円	公的年俸	約166万円	合計	約166万円	生前贈与	約9,190万円	その他の費用	約1,550万円	合計	約10,740万円	公的年俸	約6,190万円	法定相続分	約2,340万円	合計	約8,930万円
かからず療養費	約178万円																								
その他の	約30万円																								
合計	約186万円																								
公的年俸	約166万円																								
合計	約166万円																								
生前贈与	約9,190万円																								
その他の費用	約1,550万円																								
合計	約10,740万円																								
公的年俸	約6,190万円																								
法定相続分	約2,340万円																								
合計	約8,930万円																								

時間	内容	備考	スライド									
	<p>○生命保険と損害保険</p> <p>★民間保険には、生命保険と損害保険があり、保険をかける対象が違うことを説明する</p> <p>○状況によって使い分ける生命保険</p> <p>★生命保険の種類について詳しく説明したいときに使用する。</p>		 <p>生命保険と損害保険</p> <p>生命保険 損害保険</p> <p>対象 人 モン</p> <p>受取額 あらじめ約束した 事故により発生した 金額 損害額 (定期給付) (実損填補)</p> <p>被保険者 死亡 交通事故 病気・ケガ 火事 老後 台風や地震 介護 など など</p> <p>26</p>  <p>状況によって使い分ける生命保険</p> <p>①「死亡」の保険 定期など、歳暮の生活費などでお金(年金)をもらひます 定期保険・長期保険</p> <p>②「病気・ケガ」の保険 病院や介護院に入院する費用や手当を支払うとお金(年金)が受け取れます 医療保険</p> <p>③「老後」の保険 あなたが引かれたときに年金になると貯めたお金を年金(年金)が受け取れます (個人)年金保険</p> <p>④「介護」の保険 全社会になるとお金(年金)が受け取れます 介護保険</p> <p>27</p>									
グループワーク 15分	<p>4.自助・共助・公助について考え方</p> <p>○考えてみよう【WS】穴埋め、書き込み</p> <p>★★★今日本の持続可能な社会保障制度を考えいくうえで、「自助・共助・公助」のどれが大切か、考えをまとめること</p> <p>○【参考】自助・共助・公助の考え方</p> <p>★「自助」「共助」「公助」それぞれを大切だと思う人の意見を例示</p> <p>○【参考】海外の社会保障制度</p> <p>★高福祉高負担の事例としてスウェーデン、低福祉低負担の事例としてアメリカを取り上げ、社会保障制度について記載</p>	<p>・ペア、グループで意見交換を行い、様々な考え方に対する感想を述べる</p> <p>・スライド4「日本の少子高齢化の現状と推計」を用いて日本の現状を振り返っても良い。</p>	 <p>考えてみよう</p> <p>今の日本で社会保障制度を持続可能なものにするために、「自助」「共助」「公助」がどのように組み合わさればよいでしょうか。 今後の社会において「自助」「共助」「公助」のどれが一番大切だと思うかあなたの考えをまとめてしまいましょう。</p> <p>・一番大切なと思うものの（ ）に〇をいれよう。 「自助」or「共助」or「公助」</p> <p>・そう考える理由は…</p> <p>28</p>  <p>【参考】自助・共助・公助の考え方</p> <p>・Aさん（「自助」重視型） 「老後に充実した生活を送るために、「自助」や「公助」ばかりに頼らず、「自助」に重点をおいた方が良いよ。」</p> <p>・Bさん（「共助」重視型） 「社会保険料が高くなつてもいいから、公的年金等の「公助」を充実させた方が良いよ。」</p> <p>・Cさん（「公助」重視型） 「老後に最低限の生活は保障されて欲しいから、租税（税金）が高くなつても「公助」を充実させた方がいいよ。」</p> <p>【参考】海外の社会保障制度</p> <table border="1"> <tr> <td>特徴</td> <td>スウェーデン 高福祉・高負担 政府や自治体による高い公的年金や社会保険制度、雇用保険や扶助金制度をはじめとして、労災保険や児童扶養手当等も充実。福祉サービス充実。</td> <td>アメリカ 低福祉・低負担 個人の生活に干渉しないという自己責任の精神のもと自己努力が中心。</td> </tr> <tr> <td>社会保険制度</td> <td>国民年金、厚生年金、雇用保険、労災保険、医療保険や扶助金制度等、手当等も充実。福祉サービス充実。</td> <td>被用者や自営業者を対象とした年金保険や扶助金制度等の所蔵者、手当等も充実。医療保険や扶助金制度等の充実がある。その他、対象が決められた扶助や州別の保障がある。</td> </tr> <tr> <td>負担</td> <td>国民負担率 58.8% (2010年) 消費税 25%</td> <td>国民負担率 31.6% (2010年) 消費税 州により異なる</td> </tr> </table> <p>31</p>	特徴	スウェーデン 高福祉・高負担 政府や自治体による高い公的年金や社会保険制度、雇用保険や扶助金制度をはじめとして、労災保険や児童扶養手当等も充実。福祉サービス充実。	アメリカ 低福祉・低負担 個人の生活に干渉しないという自己責任の精神のもと自己努力が中心。	社会保険制度	国民年金、厚生年金、雇用保険、労災保険、医療保険や扶助金制度等、手当等も充実。福祉サービス充実。	被用者や自営業者を対象とした年金保険や扶助金制度等の所蔵者、手当等も充実。医療保険や扶助金制度等の充実がある。その他、対象が決められた扶助や州別の保障がある。	負担	国民負担率 58.8% (2010年) 消費税 25%	国民負担率 31.6% (2010年) 消費税 州により異なる
特徴	スウェーデン 高福祉・高負担 政府や自治体による高い公的年金や社会保険制度、雇用保険や扶助金制度をはじめとして、労災保険や児童扶養手当等も充実。福祉サービス充実。	アメリカ 低福祉・低負担 個人の生活に干渉しないという自己責任の精神のもと自己努力が中心。										
社会保険制度	国民年金、厚生年金、雇用保険、労災保険、医療保険や扶助金制度等、手当等も充実。福祉サービス充実。	被用者や自営業者を対象とした年金保険や扶助金制度等の所蔵者、手当等も充実。医療保険や扶助金制度等の充実がある。その他、対象が決められた扶助や州別の保障がある。										
負担	国民負担率 58.8% (2010年) 消費税 25%	国民負担率 31.6% (2010年) 消費税 州により異なる										
まとめ 5分	<p>5.まとめ</p> <p>○まとめ【WS】穴埋め</p> <p>★学んだ内容のポイントをふりかえる</p>		<p>まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>少子高齢社会における社会保障制度のあり方にについて考えていくことが大切。</li> <li>自分の身を守るために自助・共助・公助がある。</li> <li>自分で備える手段である「自助」として、預貯金や民間保険があり、それぞれの特徴をよく理解し、選択していくことが大切。</li> <li>持続可能な社会保障制度を維持するために、社会における自助・共助・公助の適切な組み合わせを考えていきましょう。</li> </ol> <p>33</p>									

## 6. 本教材における高等学校公民科（公共、政治・経済）新学習指導要領との対応

### 平成30年3月告示 高等学校公民科学習指導要領「公共」

#### A 公共の扉

- (1) 公共的な空間を作る私たち (2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方
- (3) 公共的な空間における基本原理

#### B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

##### ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。

【3 内容の取扱い (3) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。】

力 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとすること。

(ウ)・・・アの(ア)から(ウ)までのそれぞれの事項において主題を設定すること。その際、自立した主体となる個人を支える家族・家庭や地域などにあるコミュニティに着目して、世代間の協力、共同や、自助、共助及び公助などによる社会的基盤の強化などと関連付けたりするなどして、主題を追究したり解決したりできるようにすること。

(カ) アの(ウ)の・・・「財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については関連させて取り扱い、国際比較の観点から、わが国の財政の現状や少子高齢社会など、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて取り扱うこと。「金融の働き」については、金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通した経済活動の活性化についても触れること。

##### 【学習指導要領解説】

また、例えば、社会保障制度の在り方をめぐっては高福祉・高負担か、低福祉・低負担かなどの観点から考えなければならないこと、社会保障制度を持続可能なものにするには将来の世代の受益と負担を考慮しなければならないこと、生活上直面する様々なリスクに対しては、自分でそれに備えたり、対処したりするだけではなく、近隣住民などと互いに助け合うことや行政による対応が欠かせないことなどの観点から、貯蓄や民間保険などにも触れ、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わされるようにするにはどうすればよいか多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。

#### C 持続可能な社会づくりの主体と私たち

## 平成 30 年 3 月告示 高等学校公民科学習指導要領「政治・経済」

### A 現代日本における政治・経済の諸課題

- (1) 現代日本の政治・経済
- (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究

ア 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、・・・などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済を関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述すること。

#### 【学習指導要領解説】

- ・・・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、自助、共助及び公助による社会保障の考え方を対照させ、真に豊かで持続可能な福祉社会の実現という観点から探究できるようにする。
- ・・・さらに、社会保険の役割とともに、自助としての医療保険、生命保険、私的年金保険などの民間保険の役割なども調べ、広い視野から持続可能な社会保障の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることも考えられる。

### B グローバル化する国際社会の諸課題

- (1) 現代の国際政治・経済
- (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究

## □監修

大藪 千穂（岐阜大学教育学部 教授）

## □2022 年度版編集協力（50 音順）（所属は 2022 年 3 月時点）

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 浅川 貴広  | （東京都立蒲田高等学校）     |
| 佐々木 啓真 | （東京都立世田谷泉高等学校）   |
| 水野 雄人  | （東京都立東久留米総合高等学校） |